

Nano Banana 2.1 と GPT Image 2.5 比較調査 — 知財業務向け評価

調査基準日：2026年10月11日（日本時間）

エグゼクティブサマリー

まず日付について重要な訂正がある。Google「Nano Banana 2.1」は2026年10月6日公開・更新である一方、OpenAI「ChatGPT Images / GPT-Image 2.5」は2026年9月8日公開であり、両モデルが「2026年10月に公開された」という前提は正確ではない。本稿では、2026年10月11日時点の最新比較として扱う。Nano Banana 2.1 のモデルIDは `gemini-nano-banana-2.1`、GPT-Image 2.5 のAPI版には高速・標準用途の **Flare** と、高精度用途の **Sunburst** がある。 ¹

結論を先に示すと、**純粋な生成・編集品質、とくに単一画像編集、多画像編集、参照画像を維持した精密修正では GPT-Image 2.5 Sunburst が現時点で優勢**である。Arenaの2026年10月時点の人間評価では、Text-to-ImageでSunburstが1位、Flareが2位、Nano Banana 2.1が6位。Single Image EditでもSunburst 1位、Flare 2位、Nano Banana 2.1 6位、Multi Image EditではSunburst 1位、Flare 2位、Nano Banana 2.1 4位だった。ただし各2.5/Nano 2.1スコアはいずれもまだ「Preliminary」であり、Elo系スコアはFIDのような絶対品質指標ではない。 ²

一方、知財業務の「調査・説明・図解」まで含めた総合ワークフローではNano Banana 2.1に独自の優位がある。1K/2K/4K生成、最大14枚の参照画像、4人物+10オブジェクトの参照、Google Searchによるグラウンディング、thinking、テキスト・図表生成を一体化しており、Google自身の評価でもインフォグラフィック設計・事実性、多人物整合性、マスク編集、スタイル変換が前世代から大きく改善している。API価格も解像度別に1画像あたりの額が明示されているため、**大量処理の予算を立てやすい**。 ³

特許図面、商標最終案、侵害証拠という「法的に意味のある最終成果物」をモデルから直接出して無審査で使用することは、**どちらも推奨しない**。Nano Banana 2.1はGoogle自身が小さい文字、長文テキスト、キャラクター整合性、指示追従に残る限界や幻覚を明記している。OpenAIも事業者向け契約で、出力の正確性・適切性を顧客が評価する責任を負うこと、出力が他ユーザーのものと類似し得ることを明記している。したがって、知財部門では「AI=ドラフト・探索・変形候補生成」→「人間+CAD/ベクター+権利調査」→「証拠保存」という位置づけが妥当である。 ⁴

機密性については大きな差が出る。Google Gemini APIの現行料金表では、**Paid TierのコンテンツはGoogle製品改善に利用されず、Free Tierは改善に利用されるとされる**。OpenAIのBusiness/API契約では、顧客コンテンツをサービス提供、法令順守、不正防止等のために利用し、**顧客が明示的に同意しない限りサービスの開発・改善には使用しない**。したがって、未公開発明、出願前図面、係争資料、営業秘密については、いずれも**個人向け無料サービスではなく契約済み企業/API環境に限定すべき**である。 ⁵

知財担当者向けの採用判断を要約すると次の通りである。

主用途	推奨	理由
高品質な最終候補画像、広告・製品ビジュアル、精密な局所編集	GPT-Image 2.5 Sunburst	Arenaで生成・単画像編集・多画像編集のいずれも首位。参照保持と局所編集をOpenAIが重点改善。 ⁶
高速な大量ドラフト・反復	GPT-Image 2.5 Flare	OpenAIのデフォルトAPIモデル。GPT-Image-2比でより高品質、かつ50%低レイテンシとされる。 ⁷
特許説明用概念図、技術インフォグラフィック、検索事実を取り込む図解	Nano Banana 2.1	Search grounding、4K、最大14参照画像、インフォグラフィック事実性評価を備える。 ⁸
大量・定額予算管理を重視	Nano Banana 2.1	1K/2K/4Kごとの画像単価が明示され、Batchは概ね半額。 ⁹
商標ロゴの最終決定	どちらも補助用途のみ	非独自出力・既存表現類似リスクが残るため、先行商標・画像類似調査と人間のデザイン修正が必要。OpenAIは出力非一意性を契約上明示。 ¹⁰
侵害訴訟・無効資料等の「証拠」作成	生成画像を証拠にしない	AI生成物は現実の事実を証明しない。AIは検索クエリ画像や説明図に限定し、原資料を別システムで保存するのが安全。
未公開発明・営業秘密	企業向けAPI環境のみ	Google Paid Tier、OpenAI Business/APIのデータ利用条件を前提とし、DLP・アクセス制御を追加する。 ⁵

総合推奨は「一社に統一」ではなく二層化である。 大量探索・検索グラウンディング・技術図解をNano Banana 2.1、高品質な最終ビジュアル候補・精密編集をGPT-Image 2.5 Sunburst、速度重視の大量反復をFlareに割り当てる。そして、特許・商標・係争証拠に入る直前に必ず人間の知財審査ゲートを設ける構成が、現状では最も合理的である。

公式仕様・提供形態・コストの比較

両者とも、**ダウンロードして自社GPU上で推論するオープンウェイトモデルではなく、基本的にはホスト型サービス**である。このため「何GBのVRAMが必要か」という意味での推論要件は、利用企業側には原則存在しない。一方、運営側のパラメータ数、GPU/TPU台数、VRAM、推論サーバー構成は公開されていない。GoogleはNano Banana 2.1のモデルカードで、API利用者に特別なハードウェア／ソフトウェアを要求しないとしている。¹¹

項目	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5
開発元	Google / Google DeepMind	OpenAI
正式公開	2026年10月6日 。モデルID <code>gemini-nano-banana-2.1</code> 。 ¹²	2026年9月8日 。ChatGPT Images 2.5およびAPI版Flare/Sunburst。 ⁷
基盤	Gemini 3シリーズのネイティブ・マルチモーダルモデル。モデルカードではGemini 3.6 Flashを基盤と説明。 ¹³	GPT-Image 2.5ファミリー。Flare＝小型・速度最適化、Sunburst＝ベース／品質最適化という位置付け。パラメータ構成は未公開。 ¹⁴

項目	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5
パラメータ数	未公開	未公開
ライセンス	オープンソース／オープンウェイトライセンスなし。Gemini API/Googleサービスの利用規約・禁止用途ポリシーに基づくサービス利用。 ¹⁵	オープンウェイトではなくOpenAI Services Agreement等に基づくAPI利用。APIを顧客アプリへ組み込む権利が規定されている。 ¹⁰
商用利用	API/企業向けサービスとして利用可能。ただし入力素材の権利確保と禁止用途順守が必要。Googleの画像編集ドキュメントも、入力画像への必要な権利を利用者に求める。 ¹⁶	API/Business用途可。顧客は入力に必要な権利を有する責任を負う。 ¹⁰
学習データ	Nano Banana 2.1専用の具体的コーパス名・件数・著作物比率は 未公開 。モデルカードは基盤Geminiモデルの学習情報を参照する形。 ¹³	公開インターネット情報、第三者との提携により利用可能な情報、ユーザー・人間トレーナー・研究者が提供／生成した情報を含む多様なデータセット。個別サイト一覧・画像点数は 未公開 。 ¹⁷
学習手法	Nano固有の事前学習レシピ、損失関数、データ混合比率等は 未公開	詳細な事前学習・ポストトレーニング手順、データ混合比率等は 未公開 。安全分類器・データフィルタリングは公表。 ¹⁷
モデルカード	あり 。Nano Banana 2.1 Model Card。 ¹⁸	通常の「model card」というより、 ChatGPT Images 2.5 System Cardあり 。 ¹⁷
専用データカード	確認できず／未公開	確認できず／未公開
最大解像度	APIで1K/2K/4K。正方形なら概ね1024 ² 、2048 ² 、4096 ² 。 ¹⁹	1024×1024、2048×2048、3840×2160、2160×3840など複数サイズを公式ガイドが列挙。 ²⁰
参照画像	最大14枚。最大4キャラクター＋10オブジェクトの整合性を想定。 ²¹	複数参照を使う合成・一貫性維持をサポート。公式ガイドに複数画像コンポジット等の例あり。 ²⁰
テキスト描画	高度なテキストレンダリングを主要機能化。ただし1Kの小文字や長文は弱点。 ⁸	複雑レイアウト・コピー編集、看板の指定文字、翻訳済み図解等の公式例あり。 ¹⁴
検索グラウンディング	あり 。Google Search / image search grounding。 ¹⁹	画像モデル単体の同等な検索グラウンディング機能としては 未公開 。別途エージェント／検索機能との組み合わせが必要
透明背景	公開資料上、GPTほど前面には出されていない	対応 。OpenAIが2.5で改善点として強調。 ²²
API	Gemini API等で提供。 ²³	Images API等でFlare/Sunburstを提供。 ²⁴

項目	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5
Batch	対応。最大24時間ターンアラウンドのBatch API。 ¹⁹	Batch料金あり。画像出力トークンは標準の半額。 ²⁵
オンプレ／自己ホスト	Nano Banana 2.1の重み配布・自己ホスト版は 未公開／確認できず	Flare/Sunburstの重み配布・自己ホスト版は 未公開／確認できず
利用者側GPU/VRAM	ホスト型API利用なら不要。サーバー側構成は 未公開 。 ¹¹	ホスト型API利用なので利用者側GPU不要。サーバー側GPU/VRAMは 未公開
絶対レイテンシ	秒数の標準値は 未公開 。モデルカードは稀な遅延・タイムアウトを既知制約として記載。 ²⁶	固定秒数は 未公開 。Images 2.0比で最大50%低レイテンシ、FlareはGPT-Image-2比で高品質かつ50%低レイテンシ。Sunburstは高品質の代わりに長時間。 ⁷
生成物プロベナンス	API生成画像にSynthID。Geminiアプリでは可視ウォーターマークも使用。 ²⁷	C2PAメタデータ+不可視ウォーターマーク。System CardではSynthIDも採用と明記。 ²⁸

Googleのコンテキスト長には公式文書間の不一致がある。 Nano Banana 2.1 Model Cardは「最大1M context」に言及する一方、現行APIモデルページは入力131,072、出力32,768と記載している。実装時には抽象的なモデルカードより、実際に利用するAPIエンドポイントの現行上限を優先して設計すべきである。 ²⁹

料金比較ではGoogleがかなり明快である。Nano Banana 2.1の標準画像出力は\$30/100万image tokensで、Googleはこれを**1K画像 \$0.0336、2K \$0.0504、4K \$0.113**と換算している。Batchは\$15/100万image tokens、すなわちおおむね半額で、1K \$0.0168、2K \$0.0252、4K \$0.0567となる。 ⁹

したがって、**1万枚を生成する場合の画像出力部分だけの概算**は次の通りである。

月間生成	Nano 1K 標準	Nano 2K 標準	Nano 4K 標準	Nano 1K Batch	Nano 4K Batch
10,000枚	約 \$336	約 \$504	約 \$1,130	約 \$168	約 \$567

これはプロンプト入力、参照画像入力、検索グラウンディング等を除いた概算である。Search groundingは無料枠を超えると別課金になる。 ⁹

GPT-Image 2.5のFlare/Sunburstはいずれも、テキスト入力\$5/100万tokens、画像入力\$8/100万tokens、画像出力\$30/100万tokensで、Batch時の画像出力は\$15/100万tokensである。 ²⁵ **ただしOpenAIは2.5について「1Kなら必ず何ドル」という固定換算を現行モデルページで提示していないため、Nanoのような正確な1枚単価比較はできない。**

予算感を見る目的なら、あくまで**仮定ベース**で、

$$\text{月額画像出力費} \approx \text{生成枚数} \times \text{1枚あたり実測image tokens} \times \$30 / 1,000,000$$

と置くべきである。例えば実測平均が1,000 image tokens/枚なら1万枚で\$300、4,000 tokens/枚なら\$1,200、10,000 tokens/枚なら\$3,000となる。これは**OpenAIが示した標準生成コストではなく、予算感度**

見るための計算例であり、PoC時にAPI usageから自社プロンプトの平均トークン量を採取して置き換える必要がある。

導入インフラの差はしたがってGPUではなく、API Gateway、DLP、秘密情報分類、プロンプト／出力監査ログ、権限管理、費用上限、成果物台帳に現れる。オンプレ重みを持たない以上、機密発明を完全に社外へ出せない企業では、両モデルとも適用範囲が限定される。

生成品質・ベンチマーク・サンプル評価

最も比較しやすい第三者公開データはArenaである。2026年10月7日時点のText-to-Image leaderboardは660万票超を集計しており、GPT-Image-2.5 Sunburstが**1425±7で1位**、Flareが**1398±7で2位**、Nano Banana 2.1が**1328±9で6位**だった。いずれも新規モデルのためPreliminary表記である。 ³⁰

編集では差がさらに明確である。

公開ベンチマーク	GPT-Image 2.5 Sunburst	GPT-Image 2.5 Flare	Nano Banana 2.1	読み方
Arena Text-to-Image	1425±7 / 1位	1398±7 / 2位	1328±9 / 6位	GPT 2.5優勢。すべて Preliminary。 ³⁰
Arena Single Image Edit	1524±5 / 1位	1481±5 / 2位	1428±6 / 6位	局所編集・一枚の修正は GPTが明確に強い。 ³¹
Arena Multi Image Edit	1527±6 / 1位	1476±6 / 2位	1431±6 / 4位	複数画像編集もGPT優勢。ただしNanoも上位。 ³²
FID	未公開／今回確認した公式資料に記載なし	同左	未公開／今回確認した公式資料に記載なし	直接比較不可
IS	未公開／今回確認した公式資料に記載なし	同左	未公開／今回確認した公式資料に記載なし	直接比較不可

FID/ISは今回確認した両社の公開モデルカード、System Card、リリース資料では報告されていない。Googleは人間のside-by-side preferenceから算出するElo型評価やAutoRaterによる事実性評価を中心にし、OpenAIは製品品質・安全性評価と外部Arenaでの人間選好評価が利用可能な状況である。したがって「**FIDが低い方を採る**」といった古典的な単一指標比較は現時点では不可能である。 ³³

Nano Banana 2.1についてGoogleは、2026年10月の内部評価をかなり詳しく公表している。thinking有効時のOverall Preferenceは1050±14、Infographic Designは1048±17、Infographic Factualityは0.521。編集ではGeneral Editing 1026±12、single-character consistency 1028±14、multi-character consistency 1106±14、mask/ink editing 1049±15、stylization 1062±20、multi-reference editing 1066±22で、Googleの旧Nano Banana 2 / Nano Banana Proを多くの項目で上回る。ただしこの表にはGPT-Image 2.5が含まれていないため、モデル間の直接比較には使えない。 ²⁶

定性的には次のように整理できる。

評価軸	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5	実務判断
写実性・質感	1K/2K/4Kの品質・リアリズム改善をGoogleが訴求。パノラマのtiling artifactも改善。 ³⁴	自然な照明、豊かなテクスチャ、参照人物保持をOpenAIが主要改善点として公表。Arena総合でも優勢。 ³⁵	GPT優勢
解像度	最大4K。4096×4096等。 ¹⁹	最大3840×2160等の高解像度形式を公式ガイドが提示。 ²⁰	ほぼ互角。用途別アスペクト比を検証
テキスト描画	強み。ただしGoogle自身が小さい文字、特に1Kでぼけやすいこと、長文・ページ長文章を弱点と記載。 ²⁶	看板の指定コピーや翻訳済み機器図などの公式サンプルがあり、複雑レイアウトも改善。 ¹⁴	短文は双方有望。 法的文言は必ず後工程で組版
局所編集	マスク／ink編集、製品整合性が改善。 ²⁶	「頼んだ部分だけ変え、他を変えない」ことが2.5の重点。Arenaでも大差で首位。 ³⁶	GPT Sunburst優勢
複数参照	最大14参照を仕様化。 ¹⁹	複数参照の合成・保持に対応し、Arena Multi Image Edit 1、2位。 ³⁷	枚数・管理性＝Nano、最終品質＝GPT
スタイル適応	Google内部stylization評価が強い。 ²⁶	OpenAIもstyle adherence改善を公表。 ⁷	双方強い
透明背景	主な公開訴求ではない	2.5の明確な改善点。 ²²	商品・商標素材はGPTが有利
事実に基づく図解	Google Search groundingと内部Infographic Factuality評価が特徴。 ⁸	実世界情報・infographic accuracy改善を公表するが、Nanoと同形式の検索グラウンディング仕様は示されていない。 ²⁸	Nano優勢
アーティファクト	小文字ぼけ、長文、人物一貫性、編集時pose persistence等をGoogle自身が既知限界として開示。 ²⁶	2.5で品質劣化・参照ドリフトを改善。ただしアーティファクト発生率の公開定量値は 未公開 。 ⁷	どちらも目視QA必要

代表的な公式サンプルとして、Nano Banana 2.1の公式ドキュメントにはテキストレンダリング、複数参照、検索グラウンディング、編集等の例が掲載されている。GPT-Image 2.5の公式ガイドには、ベーカーリーロゴ、製品切り抜き、複数画像コンボジット、スケッチからの写実化、家具だけの交換、人物一貫性、看板の文字指定、コーヒーマシン図解の翻訳といった例が掲載されている。³⁸

知財業務の視点では、単純な「美しさ」よりも**再現性・変更箇所限定性・文字の完全一致・参照符号の一貫性**の方が重要である。その基準では、現時点の評価はおおむね**精密編集＝GPT-Image 2.5、検索情報を含む説明図＝Nano Banana 2.1、厳密な特許図面＝いずれもAIだけでは不十分**となる。

セキュリティ・プライバシー・バイアス

学習データ透明性は両社に共通する弱点である。OpenAIはGPT-Image 2.5について、公開インターネット、第三者提携、ユーザー・人間トレーナー・研究者由来のデータという大分類を開示し、個人情報減らすための高度なフィルタリングを行うとしているが、URLリスト、個別権利処理、画像件数、地域・人種・性別

等の分布は公開していない。GoogleもNano Banana 2.1専用の具体的データ構成を開示していない。したがって、どちらも利用企業が学習データの偏りを独立監査することは困難である。 39

そのため、たとえば「弁理士」「発明者」「経営者」「工場作業員」といった人物を自動生成して対外資料に使う場合、**性別・年齢・民族・身体特性などに関する社内バイアステストを別途用意するのが望ましい**。これはモデル側の安全分類器だけでは代替できない。

プライバシーでは契約形態が最重要である。GoogleのGemini API料金ページでは、Paid TierのコンテンツはGoogle製品改善に使用されず、Free Tierでは改善に利用されると明示されている。未公開発明や他社からNDAで受領した図面について、**無料Tierを社内IP業務に使用しない**というルールは合理的である。 40

OpenAIの企業/API向けServices Agreementはより明示的で、顧客が入力を所有し、法の許す範囲で出力を所有すること、OpenAIは顧客コンテンツをサービス提供・法令順守・ポリシー執行・不正防止のためにのみ利用し、**顧客が明示的に同意しない限りサービス開発・改善には使わない**としている。これは機密知財ワークフローには有利な契約上の出発点である。ただし、それでも「外部クラウドへの情報送信」であることに変わりはないので、営業秘密管理・輸出管理・顧客NDA上の外部委託可否は別途評価する必要がある。 10

悪用対策ではOpenAIの開示が比較的詳細である。GPT-Image 2.5は、プロンプト段階、入力画像、プロンプト+画像の組合せ、最終出力という複数段階の安全チェックを用いる。System Cardの敵対的安全評価では、性的内容、ヘイト、暴力、過激主義、自傷、政治、虐待、不正行為などについて「unsafe presented」の割合を計測しており、ゼロではないカテゴリも残る。つまり安全フィルタはリスクを下げるが、「**フィルタが通った=安全・合法**」ではない。 17

GoogleはすべてのNano Banana系生成画像にSynthIDを埋め込むとしている。OpenAIも2.5でC2PAに加え、System Card上はSynthIDによる不可視ウォーターマークを採用している。したがって出所識別では両社とも多層化が進んでいるが、OpenAI自身も「単一のprovenance手段だけで解決できる問題ではない」としている。 41

知財実務ではここが重要で、**SynthIDやC2PAは「その画像がAI生成された可能性・生成経路」を示す補助情報であって、「изображかれた商品が実在した」「その日そのウェブサイトに掲載されていた」「侵害行為が存在した」ことの証明とは別問題**である。侵害証拠保存ではAI由来のprovenanceと、実世界ソースの真正性・取得経路を混同してはならない。

知財・法務評価

日本では、文化庁の「AIと著作権に関する考え方について」と、それを踏まえた「AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス」、内閣府「AI時代の知的財産権検討会 中間とりまとめ」等が実務上の重要資料である。これらは、**AI学習段階と生成・利用段階**を分けて評価し、著作権法30条の4を含む学習時の権利制限と、出力利用時の既存著作物との類似性・依拠性を別々に検討する枠組みを示している。 42

したがって、「開発元がAI学習を合法と考えている」ことと、「自社が生成画像を広告・商標・訴訟資料として自由に使える」ことは同義ではない。**生成段階では自社側で出力を権利クリアランスする必要が残る**。

米国では、U.S. Copyright Officeが2025年1月にAIレポートPart 2を公表し、生成AIを用いた作品のcopyrightabilityを既存の著作権原則、とくに人間の創作的寄与を中心に判断する立場を示した。 43 さらに**Thaler v. Perlmutter**ではD.C. Circuitが2025年3月18日、AIのみが作成した作品について人間の著作権者が必要であるとの判断を維持し、2026年には米最高裁がcertiorariを認めず、Thaler側の上訴経路は事実上終了した。 44

この点はOpenAIの利用規約との区別が重要である。OpenAIの企業契約は、OpenAIと顧客との**契約関係では顧客がOutputを所有し、OpenAIが持つ権利があれば譲渡すると定めている**。しかし同時に出力は非一意で、他ユーザーに類似した結果が生じ得るとも明示する。¹⁰ **契約上「outputをownする」ことは、各国著作権法上その画像全体に排他的な著作権が発生することを保証するものではない。**

EUではAI ActがGPAI提供者に透明性・著作権関連ルールを設け、GPAI規則は2025年8月から適用段階に入った。したがってEUでモデルを提供・利用する際は、モデル提供者側の透明性だけでなく、利用企業側でもAI生成物を人間作と誤認させない運用、権利処理、記録管理を組み込む必要がある。⁴⁵

主要なIP論点をまとめると次の通りである。

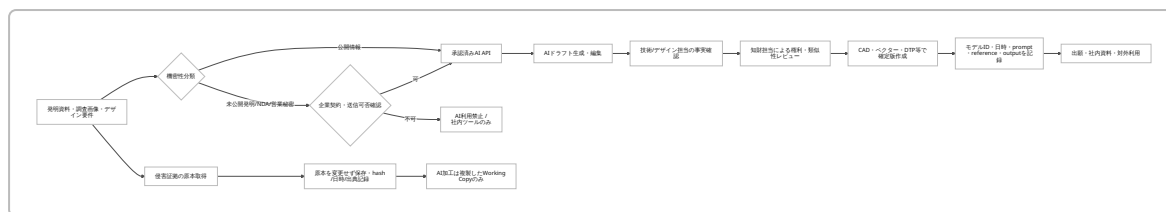
IP論点	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5	知財部門での対応
出力の契約上の権利	利用サービス／契約条項に従う。Nano固有のオープンライセンスなし	Business/API契約では顧客がOutputを所有し、OpenAIの権利があれば顧客へ譲渡。 ¹⁰	契約上の帰属と法定著作権を分けて管理
法定著作権	国ごとの人間の創作的寄与等の判断。AI利用契約だけでは決まらない	同左	重要画像は人間による構成・選択・修正過程を保存
出力の独自性	保証なしと考えてクリアランスが必要	OpenAIは「他ユーザーに類似出力があり得る」と明示。 ¹⁰	商標・パッケージ・キャラクターは類似調査必須
学習データの著作権	詳細データセット未公開	公開ウェブ＋提携＋ユーザー等だが個別権利情報は未公開。 ¹⁷	「学習済みだから出力は権利クリア」と推定しない
入力素材	権利を有する素材のみ編集するようGoogleが要求。 ¹⁶	必要なrights/licenses/permissionsを顧客が確保する義務。 ¹⁰	顧客ロゴ・他社写真・人物肖像の権利台帳を持つ
商用利用	ポリシー・契約順守を前提にAPI業務利用可能	Business/APIで業務利用可能。 ¹⁰	利用可≠第三者権利非侵害
IPモデルカード透明性	モデルカードあり、データカードは確認できず	System Cardあり、専用data cardは確認できず	調達審査では文書バージョンを保存
生成物の真正性	SynthID	C2PA+SynthID	AI生成表示の補助には有用。侵害事実の証拠とは分離

商標については特に注意が必要である。モデルが「ブランドらしいロゴ」を生成できることは、商標として安全であることを意味しない。最終採用候補は文字商標・図形商標・画像類似を通常の商標クリアランス工程に戻し、さらに生成過程で入力した競合ロゴ・デザインがないかを記録すべきである。

特許では著作権以上に「技術的真実性」が問題になる。AIがもっともらしい断面図、部材、配線、参照符号を付加すると、発明者が意図していない構造まで図に現れる可能性がある。Nano Banana 2.1自身がhallucinationを既知制約として挙げている以上、生成図は「発明内容のドラフト可視化」までとし、**出願図面のauthoritative masterはCAD／ベクターで人間が再構成するのが安全である。**²⁶

知財実務への適用設計

知財部門で安全に導入するなら、「画像生成ツール」ではなく、**生成・編集機能を既存の知財管理プロセスに差し込む**と考えるべきである。



特許図面作成では、Nano Banana 2.1は長い技術説明や複数参照画像から「部品配置の概念図」「発明者ヒアリング用スケッチ」「既存技術との差分説明図」を大量に起こす用途と相性がよい。検索グラウンディングも技術説明資料の作成には便利である。¹⁹ GPT-Image 2.5は、すでに正しい図が存在し「背景だけ削除」「特定部材だけ置換」「構成を維持して視点を調整」のような局所編集で有利と考えられる。Arena Single Image Editの結果もこの使い分けを支持する。³¹

ただし図面中の参照番号、寸法、断面、矢印、接続関係、部品数をAIに最終決定させない。OCR的に目視するだけでなく、明細書・発明者原図と項目単位で照合し、最後はCAD／SVG等の決定論的ツールへ移すべきである。

商標・ブランドデザインでは、初期アイデア数十案の展開には両者が使える。透明背景や「他の要素を維持したまま一要素だけ変える」編集はGPT-Image 2.5が特に適する。⁷ 一方、多言語文字入りロゴ、ポスター、ブランド説明資料を量産するならNanoのテキストレンダリングと4Kは魅力的である。ただし小文字の弱点が公式に確認されているため、商標名・キャッチコピーの文字はIllustrator等で再組版する。²⁶

侵害調査では、AI生成画像を「検索を広げるためのsynthetic query」として使うと価値がある。たとえば、対象製品の正面写真しかない場合に「側面想定図」「色違い」「背景除去」「主要特徴を強調した簡略図」を作り、画像検索や人手調査のクエリを増やす。Nanoの検索グラウンディングは探索型調査、GPT 2.5の参照保持は既存製品から検索用バリエーションを作る用途に向く。

しかし、生成画像そのものを「被疑侵害品がこの形状で販売されていた」ことの証拠にしてはならない。発見後は必ず実際の商品ページ、商品実物、カタログ、SNS投稿、店舗表示等の一次資料に戻る。

証拠保存ではさらに厳格である。原画像をAIへ送って「見やすくしたもの」を原本と置換しない。原本は読取り専用保管し、取得元、取得日時、ファイルハッシュ、可能ならHTTP/PDF等の元資料、担当者、取得方法を記録する。AIによる拡大、ノイズ除去、文字修復、背景除去は「Working Copy」と明示し、モデル名、snapshot/version、prompt、参照画像、生成日時、生成された全候補を保存する。C2PAやSynthIDは補完的provenance情報として残す。

運用チェックリストとして最低限、以下を**生成前・生成後・外部利用前**の三段階ゲートにするのがよい。

ゲート	必須確認
生成前	機密区分、NDA、営業秘密、個人情報、輸出管理情報、入力画像の著作権・肖像権・商標権、利用APIが承認済みか
生成後	技術的事実性、文字列完全一致、存在しない部材・ロゴ・引用の混入、人物／製品一貫性、既存作品への不自然な類似

ゲート	必須確認
外部利用前	人間の最終編集、商標・画像類似クリアランス、AI利用表示要否、出力権利、生成ログ、原本との区別、案件管理番号との紐付け
証拠案件	原本を変更していないか、AI加工版が明示されているか、hash・時刻・出典・chain of custodyが残っているか
出願案件	発明者確認、明細書との整合、AIが新たな技術事項を「創作」していないか、最終図面を決定論的ツールで確定したか

推奨・社内ポリシー案

技術的な一位を一つ選ぶなら、**2026年10月11日時点ではGPT-Image 2.5 Sunburst**である。ArenaにおいてText-to-Image、Single Image Edit、Multi Image Editのすべてで首位であり、とくに局所編集と複数回編集で「変更していない部分を維持する」という知財・ブランド実務に重要な性質をOpenAIが重点的に改善している。⁶

しかし、**知財部門の業務基盤として一つだけ選ぶ**という問いでは、判断が変わる。検索グラウンディング、14参照画像、4K、技術インフォグラフィックの事実性評価、明確な解像度別単価まで含めると、Nano Banana 2.1は「技術情報を収集→理解→図解→大量反復」という上流工程で非常に強い。³

そこで実務上は次のポートフォリオを推奨する。

Nano Banana 2.1を第一候補にする案件は、特許技術説明図の初稿、大量の概念図、検索情報を含むインフォグラフィック、複数参照資料の統合、コスト予測が重要な大量生成、Google系業務基盤との統合である。特に「正しい情報をまず集め、その内容を視覚化する」業務ではSearch groundingが明確な差別化要因になる。¹⁹

GPT-Image 2.5 Sunburstを第一候補にする案件は、ブランド・製品ビジュアルの最終候補、既存デザインを壊さない精密編集、人物・製品を維持した多段階修正、透明背景、品質優先の商標デザイン検討、訴訟・交渉資料用の高品質な説明ビジュアルである。³⁶

GPT-Image 2.5 Flareを第一候補にする案件は、Sunburst品質までは不要だが、対話的に大量の案を短時間で回したい業務である。OpenAI自身がFlareを大部分のアプリケーションのデフォルトと位置づけ、GPT-Image-2より高品質かつ50%低レイテンシとしている。⁷

一方、**どちらも最終決定者にはいけない案件**は、特許出願の正式図面、商標登録候補の権利クリアランス、侵害有無の法的判断、訴訟証拠の原本作成・修復、権利範囲を左右する技術事実の決定である。

社内ポリシーとしては、次のような文言が実装しやすい。

生成AI画像利用基本原則

当社は画像生成AIを、アイデア展開、検索補助、説明用ドラフト、既存素材の補助的編集に使用する。生成AIの出力を、特許・商標その他の権利取得、侵害判断、証拠提出その他法的効果を生じる用途の唯一の根拠として使用してはならない。重要成果物については、人間による技術確認、第三者知的財産権の確認、必要な人間の創作的修正、および生成履歴の保存を行う。

機密情報ルール

未公開発明、出願前資料、営業秘密、NDA対象情報、係争資料および個人情報を画像生成AIへ

入力する場合、法務・情報セキュリティ部門が承認した企業契約/APIのみを使用する。無料サービス・個人アカウントへの入力を禁止する。Google環境ではPaid Tierを前提とし、OpenAI環境ではBusiness/APIのデータ利用条件を適用する。 5

権利クリアランスルール

モデル出力に対するサービス提供者との契約上の権利帰属は、第三者著作権・商標権・意匠権・肖像／パブリシティ権の不存在を保証しない。商標、製品外観、キャラクター、広告キービジュアル等を対外利用する場合は、通常の権利調査を実施する。OpenAI自身もAI出力が他利用者の出力と類似し得ることを明記している。 10

証跡ルール

重要な生成物について、サービス名、モデルID、モデルsnapshotまたは利用日、prompt、negative/編集指示、入力参照画像、全出力、採用理由、人間による修正、最終成果物、担当者を案件台帳へ保存する。C2PA/SynthID情報が存在する場合は可能な限り保持する。 47

証拠分離ルール

侵害調査・紛争案件では、取得した一次資料をimmutableな原本として保存し、AI処理は複製物にのみ行う。AI生成・修復・拡大された画像は「説明用／加工版」と表示し、原本と混同させない。

最終的な採用評価を知財部門向けに数値化すると、現時点では次のようになる。

評価項目	Nano Banana 2.1	GPT-Image 2.5 Flare	GPT-Image 2.5 Sunburst
純粋な生成品質	★★★★☆	★★★★☆～ ★★★★★	★★★★★
精密画像編集	★★★★☆	★★★★☆～ ★★★★★	★★★★★
多画像・参照保持	★★★★☆	★★★★☆	★★★★★
技術インフォグラフィック	★★★★★	★★★★☆	★★★★☆～ ★★★★★
検索事実との統合	★★★★★	★★★★☆☆	★★★★☆☆
テキスト描画	★★★★☆	★★★★☆	★★★★☆～ ★★★★★
高速反復	★★★★☆	★★★★★	★★★★☆☆
単価予測容易性	★★★★★	★★★★☆☆	★★★★☆☆
API導入容易性	★★★★★	★★★★★	★★★★★
自社オンプレ	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
公開技術透明性	★★☆☆☆	★★☆☆☆	★★☆☆☆
知財最終成果物への無審査利用	非推奨	非推奨	非推奨

星評価は本調査で確認した公式仕様、公開ベンチマーク、価格体系および知財実務上の要求を基にした**本レポート独自の相対評価**であり、ベンダー公式スコアではない。品質面の根拠としては、現時点のArenaでGPT-Image 2.5 Sunburst/FlareがNano Banana 2.1を総合生成・単画像編集・多画像編集で上回る一方、NanoはGoogle独自評価でインフォグラフィック事実性・multi-reference・stylization等の強い改善を示している。 48

最終結論として、知財業務への導入を「一モデルですべて置き換える」プロジェクトにすべきではない。**Nano Banana 2.1は探索・技術理解・大量図解のエンジン、GPT-Image 2.5 Flareは高速反復エンジン、Sunburstは高品質・高精度編集エンジン**として位置付けるのが合理的である。その上に、機密情報ゲート、入力権利確認、出力類似性チェック、人間による技術確認、CAD/ベクターでの確定、生成履歴保存という共通統制を置くべきである。

特に知財部門では、モデルの「美しい画像を作れる能力」よりも、**何を入力したか、何を変えたか、どこまで人間が確認したか、第三者権利をどう確認したか、原本とAI加工物を区別できるか**が最終的なリスクを決める。2026年10月時点の両モデルはすでに高度な実務補助ツールになっているが、**権利取得・侵害判断・証拠真正性**という知財業務の核心部分では、AIを「**創作者兼判断者**」ではなく「**高度なドラフト／探索／編集ツール**」として統制することが、最も実行可能でリスクの低い導入方針である。

1 12 21 34 Gemini Nano Banana 2.1 | Gemini API | Google AI for Developers

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/models/gemini-nano-banana-2.1>

2 6 30 48 arena.ai

<https://lmarena.ai/leaderboard/text-to-image>

3 4 8 11 13 18 23 26 29 33 Nano Banana 2.1 - Model Card — Google DeepMind

<https://deepmind.google/models/model-cards/nano-banana-2-1/>

5 9 40 Gemini Developer API pricing | Gemini API | Google AI for Developers

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/pricing>

7 22 24 35 36 Introducing ChatGPT Images 2.5 | OpenAI

<https://openai.com/index/introducing-chatgpt-images-2-5/>

10 OpenAI Services Agreement | OpenAI

<https://openai.com/policies/business-terms/>

14 20 37 Image prompting | OpenAI API

<https://developers.openai.com/api/docs/guides/image-prompting>

15 16 19 27 38 41 46 Gemini API | Google AI for Developers

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/image-generation>

17 28 39 47 ChatGPT Images 2.5 System Card - OpenAI Deployment Safety Hub

<https://deploymentsafety.openai.com/chatgpt-images-2-5>

25 GPT-Image-2.5 Sunburst Model | OpenAI API

<https://developers.openai.com/api/docs/models/gpt-image-2.5-sunburst>

31 arena.ai

<https://arena.ai/leaderboard/image/image-edit/single-image>

32 arena.ai

<https://arena.ai/leaderboard/image/image-edit/multi-image>

42 AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス（文化庁著作 ...

https://portal.shojihomu.jp/archives/70452?utm_source=chatgpt.com

43 Copyright and Artificial Intelligence, Part 2: Copyrightability

[https://www.copyright.gov/ai/Copyright-and-Artificial-Intelligence-Part-2-Copyrightability-Report.pdf?](https://www.copyright.gov/ai/Copyright-and-Artificial-Intelligence-Part-2-Copyrightability-Report.pdf?utm_source=chatgpt.com)
[utm_source=chatgpt.com](https://www.copyright.gov/ai/Copyright-and-Artificial-Intelligence-Part-2-Copyrightability-Report.pdf?utm_source=chatgpt.com)

44 The Final Word? Supreme Court Refuses to Hear Case on ...

[https://www.hklaw.com/en/insights/publications/2026/03/the-final-word-supreme-court-refuses-to-hear-case-on-ai-](https://www.hklaw.com/en/insights/publications/2026/03/the-final-word-supreme-court-refuses-to-hear-case-on-ai-authorship?utm_source=chatgpt.com)
[authorship?utm_source=chatgpt.com](https://www.hklaw.com/en/insights/publications/2026/03/the-final-word-supreme-court-refuses-to-hear-case-on-ai-authorship?utm_source=chatgpt.com)

45 AI Act | Shaping Europe's digital future - European Union

https://digital-strategy.ec.europa.eu/en/policies/regulatory-framework-ai?utm_source=chatgpt.com